

「シジュウカラの孵化(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

シジュウカラは、1羽のメスが6個から10個もの卵を産む。産むのは1日に1個なので、今回のように10個産むと、初卵と最後の卵に10日の差が出てしまう。親鳥が初卵から温め続けると、最初の卵から順に孵化して、ヒナの成長に差がついてしまう。そこで親鳥は、全部の卵を産み終わるまで、積極的に抱卵はしないのだ。今回も、ほとんど一斉に孵化が始まった。



5月23日 11:50 孵化したのはまだ1羽のみ。



12:38 さっそくオスが餌を運んできた。



12:44 2卵目が孵化。メスが殻を掘りだして食べた。



13:25 すでに3羽が孵化している。

ダチョウのヒナは、孵化直後に歩き始める。しかし、シジュウカラのヒナは、非常に未熟な状態で孵化する。自分でできることは、餌をねだって口を大きく開けることだけだ。人の赤ちゃんと同じように、食餌本能は生まれた直後から見られるのだ。抱卵期とはちがって、母親鳥も父親鳥も、餌やりに大忙しになる。